

国民同胞

発行所
 公益社団法人 国民文化研究会
 (九州←→東京←→全国)
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470
<http://www.kokubunken.or.jp/>
 E-mail: info@kokubunken.or.jp

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

御代替りに思ふ

―「国見」と「神祭り」―

内海勝彦

今年の正月二日、私は新年恒例の一般参賀の列の中にゐた。空気は冷たかったが陽の光は暖かかった。二時間ほど並んで宮殿「長和殿」の前に立ち、あと二十分後のお出ましをお待ちしてゐると、三十分早まるとのアナウンスがあり、一斉に「おおい」といふ歓声が上がった。やがて天皇陛下、皇后陛下、皇太子同妃両殿下の順に、さらには宮様方が続き、お揃ひでお出ましになられた。

陛下の「お言葉」が終ると、日の丸の小旗がうち振られ、天皇陛下万歳の声が湧き上がった。僅か五分ほどの時間が、私にはゆっくりと感じられた。陛下と皇太子殿下の並ばれたお姿を拝した時、何故か、悠久の昔の「国見」のことが思ひ起された。「国見」とは仁徳天皇の「民の籠」の逸話で知られるやうに、天皇や地方の長が高所から国の地勢や人々の生活ぶりを望み見ることだが、民俗

学者で歌人の折口信夫は「国見」の行事について、単に天子が国々を巡視する意味ではなく「其効果が土地・人間の上に及んでその年は祝福せられたのである」(萬葉集講義)とその意味を説いてゐる。また漢文学者の白川静は「古代においては『見る』といふ行為がすでにただならぬ意味を持つものであり、それは対者との内的交渉を持つことを意味した」(初期万葉論)と論じてゐる。

つまり、遠い昔を思ひ起すやうに私に感じられたのは、常に国民の安寧と幸せを祈られる陛下のお心に畏れ多くも私の心が感応したからであり、陛下と殿下が並び立たれるお姿を仰いだ時に、陛下の大御心は次の天皇にしっかりと引継がれるに違ひないとの思ひが私の内奥から自づと湧いて来たからだと思ふ。報道によれば、当初参賀は六回予定されてゐたが、両陛下が六回目

の途中で、それに間に合はずに猶も門から入ってくる参賀者がゐることに気付かれて、七回目を提案されたとのことである。まことに有難い思召しであった。この日の参賀者は平成になって最多の十五万四千八百人に上ったといふ。

さて、御代替りに伴ひ新天皇が最初になさる毎秋の新嘗祭を「大嘗祭」といふ。新嘗祭は皇居の神嘉殿で営まれるが、一世一度の「大嘗祭」では、「悠紀殿」と「主基殿」の両殿が設けられる(大嘗宮)。それぞれの祭場で、皇祖神である天照大神と天神地祇(天地の神々)に、新穀をお供へし、御告文を奏して、天皇親ら新穀を食される。収穫に感謝しつつ、国の安寧と五穀豊穡を祈られる祭祀であつて、陛下御一人のみがお仕へになる神聖な祭りである。この天皇による祭祀の継承こそ天皇の権威が生れくる源とされてゐる。

畏れながらも想像することではあるが、大嘗祭において、天皇は全身全霊を以て、皇祖天照大神と魂の交信をされるのではなからうか。まづ、天照大神が皇孫瓊杵尊を地上にお降しになり国土を治めよと御命令される「天壤無窮の神勅」がある。「葦原の千五百秋瑞穂の国は、是吾が子孫の王たるべき地なり爾皇孫、就でまして治せ。行矣(行

つてらつしやい、お元気で)。寶(皇位)の隆えまさむこと、當に天壤と窮り無けむ(永遠に続く)」。恐らく新天皇は遠く天照大神からのお励ましのみ声をお聴きにならるのでなからうか。

さらにまた、初代神武天皇の即位の際の「橿原建都の詔」をもお聴きになられるのではなからうか。「苟くも民に利有らば、何ぞ聖の造に妨はむ(宝である民に幸を与へることならばそれは神々の意志に沿ふものである)。―中略―上は乾霊の国を授けたまひし徳に答へ、下は皇孫の正を養ひたまひし心を弘めむ(天つ神によつて授けられた徳に励み務め、皇孫邇邇藝命の承け継いで来た正しい道を人々に弘めてゆかう)。私は歴代の天皇方が国民と休戚(喜び悲しみ)を同じくされようとお務めになられるお心の基が、ここに」と改めて気付かされた。

天皇は、折々の「神祭り」を通じてご祖先の神々と対面されて、遙か建国の理想に立ち帰られるご存在であると思ふ。父方の系譜を遡れば神武天皇に辿り着くといふ男系による皇位継承こそ日本の伝統だが、今後とも永く皇位が続いてゆくにはどうすればいいか。御代替りに際会したいま、日本人が真剣に考へねばならぬ事柄である。(株)IHIEアロスペース